

タジキスタン（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在タジキスタン日本国大使館](#)

- 2024年度日本語教育機関調査結果
- 日本語教育の実施状況
- 教育制度と外国語教育
- 学習環境
- 教師
- 教師会
- 日本語教師派遣情報
- シラバス・ガイドライン
- 評価・試験
- 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	0	0	0	2	4	119	1	4	55	3	8	174

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

1991年ソ連邦崩壊とともに独立したタジキスタンは、1992年から1997年まで熾烈な内戦を経験し、一般国民の生活に関わる多くの社会インフラが破壊された。内戦中に、ソ連時代に比較的高い水準で育成された教育分野の専門人材（主に非タジク系）が流出したため、教育分野も混乱に陥った。

タジキスタンにおける外国語教育のうち日本語教育は、近隣の中央アジア諸国に比べ、現地人教師と学習者の量質ともに未だ立ち後れている状況にある。専門課程で日本語教育がなされている高等教育機関は、後述するタジク国際外国語大学のみである。

2002年9月、国立言語大学（2023年にタジク国際外国語大学に改称）に日本語の専門課程である日本語学科が開設された。設立当初は日本人教師はおらず、現地人教師のみで日本語教育がなされていたが、その後2004年9月より2010年7月までの期間、数名の日本人ボランティア教師がほぼ1年交替で日本語教育に携わってき

た。2007年6月には学科創設以来、初めての卒業生を輩出した。2015年2月から、JICA短期（1年未満）シニアボランティア（SV）が継続的に巡回指導を行う形で現地人教師の育成及び学生への指導が実施されてきた。

2024年6月からJICA長期（2年）SVの派遣が始まり、中長期的に現地人教師の育成及び学生への指導がなされている。現地人教師に関し、待遇の悪さが主因で教師が定着しないこと、学生への日常的指導に忙殺され自身の日本語力・教授法のスキルアップを図る場が少ないことが課題である。結果として、当国で唯一の日本語教育専門の学科であるにも関わらず、教師・学生ともに日本語力の向上が進んでいない。

2006年9月にはロシア・タジク・スラブ大学に第二外国語として日本語コースが開設され、2014年6月までJICA短期SVが断続的に派遣され単位の取得がない特別クラスを実施していた。2015年2月からは単位の取得があるクラスが始まり、JICA短期SVが現地人教師と共に学生指導を行っていたが、世界的なコロナ禍を受けて2020年3月に離任した。2024年12月からJICA長期SVが派遣されているが、2025年9月からの新学年開始時には現地人教師不在の状態となったため日本語コースが縮小され、2026年9月以降の継続が危ぶまれている。

2007年9月には国際NGOアクテッドが運営するバクトリア文化センターにおいて日本語コースが開設されたが慢性的な教員不足が続き、2008年には同コースは閉鎖された。その後、2018年には再度コースが開講されたものの閉鎖された。

2009年には、ロシア・タジク・ギムナジウム特別中学校（ホタムP.V.）において、放課後の自由選択授業として、日本語講座が開設された。現在同校では、週3回、現地人教師の下で日本語を学んでおり、外国語大学とスラブ大学配属のSVが時々巡回指導する形で日本人講師によるサポートが行われている。同校では、教材が慢性的に不足した状況が開講以来続いている。

2015年9月には、北部都市のパンジャケント教育大学に日本語学科が開設されたが、日本人ボランティアの帰国とともに閉鎖された。

2019年9月には現地人教師が主催する日本語・日本文化学習センター「ココロ」で日本語コースが開講し、民間の日本語教育機関として積極的に活動を展開している。

2023年、主に日本への労働者派遣へ向けた日本語教育機関として「FUJI SAN」教育センターがオープンしたが、指導する現地人教師のレベルの向上が課題である。

2025年2月、国際協力機構（JICA）が日本研究を含む学术交流の拠点として「JICA チェアセンター」をタジク国立大学内にオープンし、9月から希望学生を集めた日本語サークルが開始された。

背景

タジキスタンでは独立後の内戦にて生じた国内経済・インフラの損失、優秀な人材の国外流出等が生じ、これらが未だ経済成長の足かせとなっている。こうした状況の中、タジキスタンの将来を担う人材の育成は政府も急務とするところである。

上述のとおり、人材の国外流出は教育分野でも起こり優秀な教員を養成する制度が未整備なことから、初・中・高等教育とも教員の量質ともに課題が大きい。教員と教室不足のために初・中等教育では二部または三部制が取られるとともに、合計11年間であり（日本の12年間より1年少ない）、基本的な識字率の高いものの、学校で習得する基礎教育の水準は高くない。一部、数学・英語などの科目に特化したエリート養成を行う中等教育機関が存在するものの、希望者が多く狭き門となっている。高等教育では、大学の数は一定数あるが、全体的に教員の専門知識レベルが低いことに加え、履修科目のカリキュラムやシラバス、教材も未整備であることが多い。従って、学生の国外留学志向は高く、言語教育は大変重要視されている。

タジキスタンにおいて日本は、先端技術や武道の国として比較的好意的に認識されてきたが、中国の台頭から、若年層を中心に日本に対する認知度の低下がみられる。また、市場に出回り始めた高品質ながら日本製より安価

な電化製品や化粧品などの製品、ポップカルチャーの発信を通して知名度向上を図っている韓国に比べると、未だ日本企業の進出は極めて限定的であり在留邦人も少ない中、社会における日本語のニーズは低く、日本語学習者数も限定的である。

特徴

開発途上にあるタジキスタンでは、「語学能力＝職を得るためのツール」と考える向きが多く、従って英語、中国語、ドイツ語、フランス語など、国際機関やビジネスシーンで有用性の高い言語の学習者が多い。また、伝統的に国外労働先となっているロシアにおける近年の動向を受け、政府は国外労働先の多様化を戦略として掲げており、韓国への労働者派遣が始まると同時に韓国語学習の機会が増えている。日本語学習希望者については、教育機関の他、民間の語学学校として 2 つのセンターがあり、「ココロ」では初級から中級の日本語講座、「FUJISAN」では入門・初級の日本語講座が現地人教師によって運営されている。

日本語学習者の学習動機としては、日本の大学・日本語学校への留学、日本の文化・伝統への関心、日本語そのものへの語学的興味、アニメ・マンガなどの日本のポップカルチャーへの関心などだが、近年、民間語学学校では特に、日本での労働を目指して日本語を学習し始める人が出てきている。

問題点としては、十分な学習環境が整備されておらず、かつ十分な質と数の教員が存在しないことから日本語教育レベルが低水準に留まっていること、更に日本語を使う就職先等、日本語の習得を活かせる場が非常に限られているということがある。

日本語の水準を図る 1 つの行事として日本語弁論大会があり、中央アジアでは 2000 年代初頭から、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス 3 か国の持ち回りの形で毎年開催されている。タジキスタンはこの本大会出場に向けて国内大会を毎年 3 月頃に開催しており、第 20 回大会を 2026 年 2 月末に開催する予定。弁論を自力で行えるレベルの学習者が少ないため、中央アジア本大会への出場枠を競う「弁論の部」のほか、初級レベルの学習者でも参加できる「暗唱の部」を設けている。

最新動向

上述のとおり、高等教育機関のうち主専攻（翻訳コース、教師コース）で日本語が学習されているのは、タジク国際外国語大学のみである。ロシア・タジク・スラブ大学では第二外国語として英語学科と国際関係学科の学生が日本語を学習していたが、2025 年 9 月新学年より現地人教師不在のため、本年度で第二外国語学習が終了する国際関係学科のみが残され、来年以降は日本語学習が行われなくなる危機に直面している。一方で、タジキスタン随一のタジク国立大学で日本語サークルが始まるなどの新しい動きもある。中等教育機関としては、ロシア・タジク・ギムナジウム特別中学校（ホタム P.V.）において、放課後のクラブ・サークルの形で細々と日本語教育が実施されている。このほか、民間の語学学校 2 校で日本語教育がなされている点は、上述のとおり。

2016 年 11 月に、当地初となる日本語教師会「タジキスタン日本語教師会」が、JICA 短期 SV の支援のもと設立された。タジキスタンの日本語教育に対する支援として、JICA の SV が中心となり、日本語教育カリキュラムの作成、教科書の選定、現地人教師の指導、学生への日本語教育にあたってきた。また、国際交流基金による日本語教師研修プログラムを活用し、現地人教師のレベル向上に取り組んでいるほか、教材購入助成プログラムを活用して日本語教育教材の充実化を図っている。

タジク国際外国語大学では、日本語主専攻学生が対象となる国費外国人留学生（日本・日本文化研修）に加え大学間の交換留学制度（筑波大学、東京外国語大学、武蔵野大学）の拡大により、日本留学の機会が増えている。

日本語能力を測る日本語能力試験（JLPT）は年 1 回 12 月（第 2 回）のみの実施で推移してきたが、学習者のニーズ増を受け、2025 年から 7 月（第 1 回）試験も開始し、年 2 回の実施となった。毎回の受験者数は 100 人

前後。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育は実施されていない。

中等教育

ロシア・タジク・ギムナジウム特別学校（ホタム P.V.）において日本語講座（希望者のみ）が実施されている。

高等教育

タジク国際外国語大学（専門課程）及びロシア・タジク・スラブ大学（選択科目）で日本語教育が実施されている。

学校教育以外

日本語・日本文化学習センター「ココロ」、 「FUJI SAN」教育センター

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

11-4 制

初等・中等教育は 11 年制（6～17 歳）で、義務教育。後期中等教育機関にあたるリツェイ（8～11 年生の 3 年間）もある。高等教育機関である大学は 4 年制。

教育行政

初等・中等教育機関も大学も教育科学省の管轄下にある。一部の専門大学では、教育科学省ではなく他省庁の管轄下にある（例えば農業大学は農業省、芸術大学は文化省の管轄下にある）。2023 年 9 月に新設された初等・中等職業教育委員会が、後期中等職業教育のリツェイやコレッジを管轄している。

言語事情

タジク語が国家語であり公用語であるが、ロシア語も民族間交流語として公用語の位置づけが与えられている。その他、ウズベク系住民がウズベク語を、キルギス系住民がキルギス語を使用し、ゴルノ・バダフシャン自治州ではパミール諸語が使用されている。

外国語教育

1 年生より第一外国語としてロシア語を履修（必修）。

4年生から第二外国語として英語、ドイツ語、フランス語等（学校によって異なる）から選択履修（必修）。

外国語の中での日本語の人気

ロシア語を別とすると、外国語の中では英語、中国語、ドイツ語、フランス語、アラビア語の人気が高い。特に、中国は「一帯一路」政策のもと経済的結びつきを急速に強めており、孔子学院を中心に中国語教育機関が大規模に整備されているため、中国語学習者は急増している。また、近年は K-pop など文化的人気を背景に韓国語の人気も高まっており、世宗学堂を中心に教育機関も整備され、韓国語学習者も増加傾向にある。他方、日本語については専門課程が現在1大学にしかなく、中国や韓国のような大規模な語学教育支援も行われておらず、日本語学習者は微増にとどまっている。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4.学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

『みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ』スリーエーネットワーク（スリーエーネットワーク）
『まるごと入門、初級』国際交流基金（三修社）

高等教育

『みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ』『ひらけ日本語』拓殖大学留学生別課（凡人社）、『BASIC KANJI BOOK』加納千恵子他（凡人社）、『ジェイ・ブリッジ』（凡人社）などがよく使われている。

学校教育以外

青少年コース『みんなの日本語初級Ⅰ、Ⅱ』スリーエーネットワーク
『まるごと入門、初級』国際交流基金（三修社）
社会人コース 新聞記事や手製教材

IT・視聴覚機材

日本語教育に IT・視聴覚機材が使用されることは多くないが、JLPT 聴解試験対策として教材・機材が使用されることはある。

5.教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

学士号が必要。

高等教育

基本的には修士号以上であるが、日本語教育能力検定試験合格、またはそれに準ずる資格が必要。

学校教育以外

特段の基準は定められていない。

日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関、プログラムはない。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

JICA の SV（実務経験 15 年以上）が配属されているのみで、個人契約の日本人教師は雇用されていない。

教師研修

現職の日本語教師対象の研修は当地では確認されていない。近隣国（ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス）配置の国際交流基金（JF）専門家のうち、タジキスタン担当の専門家による巡回研修が年 1 回ほど実施されていた時期があり、直近では第 20 回タジキスタン日本語弁論大会（2026 年 2 月末）の際にキルギスから JF 専門家が出張しセミナー形式で教師研修が実施される予定。

現職教師研修プログラム（一覧）

特になし

6. 教師会

2016 年 11 月に「タジキスタン日本語教師会」が発足。

日本語教育関係のネットワークの状況

「タジキスタン日本語教師会」が中心となって、ネットワークが構築されている。日本語能力試験や各種日本語関連イベントの際には、日本語教師会が中心となって、日本語学科卒業生などへの広報活動も行っている。

[教師会・学会一覧へ](#)

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

国際協力機構（JICA）からの派遣（2025年10月現在）

シニア海外協力隊

タジク国立言語大学 1名

ロシア・タジク・スラブ大学 1名

8.シラバス・ガイドライン

初等教育

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。

中等教育

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。

高等教育

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。

学校教育以外

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。

9.評価・試験

評価・試験の種類

共通の評価基準や試験はない。

10.日本語教育略史

2002年9月

国立言語大学にて日本語教育開始

2006年9月

ロシア-タジク・スラブ大学で日本語教育（第二外国語）開始

2007年6月

国立言語大学で、日本語学科創設以来初の卒業生輩出

2007年9月	アクテッド・バクトリア文化センターで日本語コース開設
2008年9月	アクテッド・バクトリア文化センターにおける日本語コース閉鎖
2009年9月	ロシア・タジク・ギムナジウム特別中学校（ホタム P.V.）での日本語講座開始
2012年7月	ロシア-タジク・スラブ大学での日本語教育中止
2014年4月	ロシア-タジク・スラブ大学での日本語教育再開
2015年9月	パンジャケント教育大学での日本語教育開始、その後閉鎖
2016年11月	タジキスタン日本語教師会が発足
2016年12月	日本語能力試験の初実施
2018年6月	クテッド・バクトリア文化センターにおける日本語コース再開、その後閉鎖
2019年9月	日本語・日本文化学習センター「ココロ」開設
2023年	「FUJI SAN」教育センター開設
2023年	「国立言語大学」から「タジク国際外国語大学」へ改称
2024年6月	国際協力機構（JICA）長期シニアボランティア派遣開始
2025年7月	第1回（7月）日本語能力試験開始
2025年9月	「JICA チェアセンター」日本語サークル開始

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
 なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

Eメール：kuniketsu@jpf.go.jp

（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）